

令和3年度

一行詩  
「生命のこえ」  
コンテスト

作品集



公益社団法人  
みやざき被害者支援センター

## 「犯罪被害者週間」キャンペーン事業

# 一行詩 「生命のこえ」

■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ テーマ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

## とうと いのち 「尊い生命」～未来へ続く生命のこえ～<sup>いのち</sup>

全国各地で、殺人、強盗などの凶悪犯罪や少年のいじめによる自殺など、「人の生命の尊さ」を軽視した理不尽な事件や交通事故などの報道が後を絶ちません。そこで「尊い生命～未来へ続く生命のこえ～」と題した一行詩を、県内の小学生、中学生、高校生、一般といった年齢各層の皆様を対象に広く募集しました。その結果、5,479編という多数の応募がありました。

小学生の部

564編

中学生の部

3,351編

高校生の部

1,365編

一般の部

199編

応募総数

5,479編

\*「一行詩」とは、短い詩のことです。

一息で読める長さを一行として50字以内で表現したものです。

# 一行詩「生命のこえ」

## 入賞作品紹介

### 小学生の部

- 最優秀賞 ..... 1名
- 優秀賞 ..... 4名
- 入選 ..... 8名
- 学校賞 ..... 1校

### 中学生の部

- 最優秀賞 ..... 1名
- 優秀賞 ..... 7名
- 入選 ..... 11名
- 学校賞 ..... 1校

### 高校生の部

- 最優秀賞 ..... 1名
- 優秀賞 ..... 5名
- 入選 ..... 11名
- 学校賞 ..... 1校

### 一般の部

- 最優秀賞 ..... 1名
- 優秀賞 ..... 2名
- 入選 ..... 4名

# 小学生の部

## 最優秀賞

いろんな人に会えない1年。  
いつになつたら、また会えるんだろう。  
本当の幸せが何か分かった気がする。

松田 翠想〈金谷小6年〉

## 優秀賞

しずんでもしずんでもなんども上に上がろうとするメダカの赤ちゃん  
生きようとするすがたがうれしかったよ。

安藤 結叶〈松尾小3年〉

やさしい言葉は心をポカポカ。意地悪言葉は心をグサグサ。  
人を思いやる言葉はかっこいい。

本部 大智〈宮崎南小3年〉

毎日毎日大変な日々。それなのに、毎日やる気がでてくる。  
今日もまた頑張ろうとする自分すごいな。

井口 野乃〈美郷南学園6年〉

命は、尊いガラスのようにこわれやすくて  
太陽のように温かいでも命をたつとすぐつめたくなる命を大切に

若田 莉緒〈美郷南学園3年〉

## 入選

人の心は見えない。その一言できずついているかもしれない。

言葉づかいは難しい。相手の気持ちを考えて。

川口 恵美〈美郷南学園5年〉

足こしひざがいたいのに、しごとをがんばるじいちゃんばあちゃん。

オリンピックに出られるくらいすごいね。

石原 そら〈富田小2年〉

「大丈夫?」ときくとみんな大丈夫と言う。

だから私は、「無理しないで。」「手伝うよ。」と声をかける人になる。

前畠 杏〈都城・東小6年〉

水をあげてると つるつるなトマトができた。

はっぱはかれてみにえいようをわたすんだって。いのちはすごい。

細山田 梨花〈恒久小2年〉

この前、ニュースで小学生が亡くなったのを見た。

知らない人でも、ギュウッと胸が苦しくなった。

飯田 真希〈都城・東小6年〉

赤ちゃんってとっても小さいのに大きいこえで力づよくなくなんだね。

いらっしゃうけんめい生きてるんだなあ

永池 航大〈一ヶ岡小1年〉

悪い事を言って人の心にきずをつけたらそれはもう直せない。命を大切にして。

平川 汐夏〈吾田東小4年〉

みんなを笑わせようと思って言った言葉。

時には、じょうだんではなく人をきずつけることになっていないかな

徳留 心美〈夏尾小5年〉

## 学校賞

美郷南学園

# 中学生の部

## 最優秀賞

「大丈夫。」なぜか安心  
なぜなら  
全てに「人」の文字

菊地 紗音〈美郷南学園7年〉

## 優秀賞

「大丈夫？」あなたに声をかけられた。  
見える景色に、鮮やかな色がついたのはこの日から。

成相 瑛希〈鵬翔中1年〉

「今日は何かあった？」毎日母が聞く言葉。「何も」いつもそっけない僕。  
でも安心する。僕を思う温かい気持ちの言葉。

徳山 涼志郎〈富田中2年〉

祖母は、私が今小学何年生か聞いてくる。  
でも私の事は覚えていて帰る時には必ず「気をつけて」と言ってくれる。

戸高 由貴〈三松中1年〉

台風の日、子猫を助けた。  
コロナ禍でも家族を明るい笑顔にした彼女は、今では私の大切な家族。

山下 千穂〈鵬翔中1年〉

米良太鼓を創った祖父。一度も教えてもらはず亡くなった。今年卒業の太鼓。  
祖父への涙を汗に替えバチを握る。

那須 翼〈西米良中3年〉

たまには空を見上げるのもいい。空を見ていると不思議と気持ちが落ち着いてくる。  
空は僕のカウンセラーだ。

三代 真睦〈鵬翔中3年〉

僕の家で飼われている牛は1000頭の肥育牛。大切に育てて多くの人に食べてもらう。  
みんなの命のため。

坊野 琥帆〈上江中2年〉

## 入選

母さんの肉じゃがが食べれないとか、マンガの続きが気になるとか、そんな理由でいい。

生きてく理由なんて。

緒方 ゆい〈宮崎西高附属中2年〉

何も考えずに書いたコメント。

書かれた人の心の傷は消えないし、書いたコメントが消えることもない。 服部 衣千乃〈日南学園中1年〉

祖父が倒れて、目を覚まさないまま1か月。入ることができない病室。

私の声をきいたら、きっと覚ますのに。

小玉 瑞季〈鵬翔中3年〉

毎日通学の中で、母が作ってくれる温かいおにぎり。

4時半に起きたとは思えないほど、パワーに満ちていた。

染矢 拓飛〈宮崎西高附属中1年〉

募金箱にお金を入れる。遠い国の遠い街に思いを馳せる。

チャリンと音がして気づく。自分だけじゃない命に。

塚原 歩佳〈宮崎西高附属中1年〉

この世で一番に捨てるべきもの。

それは食べ物でも、まだ使える紙でもない。人を傷つける言葉だ。 池田 真唯〈宮崎西高附属中3年〉

私は今、心の底から笑い、幸せを分かち合っていると思う。

マスクをしていても、君の笑顔は届いているから。

遠藤 詩乃〈宮崎西高附属中3年〉

コロナ禍での生活。楽しみだった学校の行事。すごくさびしい。

中学最後の生活。それでもコロナに負けない

甲斐 愛梨〈宮崎日大中3年〉

命があるからできたこと。命があるから学べたこと。

私たちは命が無かったら何もできない。何も学べない。

丁 鈴音〈青島中1年〉

人見知りなあの子、いつも1人のあの子。

私ができることは、「ねえ、今日の授業何だっけ？」

中原 春香〈宮大附属中3年〉

死にたい人に「生きて」は重すぎるから、

「逃げても、立ち止まってもいいから無理せず歩こう」そう伝えたい。

河野 麻心〈三納中2年〉

## 学校賞

宮崎大学教育学部附属中学校

# 高校生の部

## 最優秀賞

最前線。「生」と「死」の間を見続ける。  
病院勤めの母の背が語る。  
大変さ。命と関わる責任の重さ。

泉 日奈子〈鵬翔高2年〉

## 優秀賞

一生に1度の高校生活。コロナで無くなった青春の行事。  
だけど今の我慢の分だけ大切な人の命が助かっている。

中藪 泉純〈高千穂高1年〉

家に広がる家族の音。朝は弁当を作る母の一言。  
夜は仕事の疲れをビールで流し込む父の音。私もいってきます

永山 亜優美〈高城高3年〉

“命”とは大切なものの “命”とは苦しむもの “命”とは楽しむもの  
“命”とは幸せになるもの “命”はそうして繋がれる

甲斐 悠飛〈高千穂高1年〉

ねえ笑って。思い出づくりをしよう。はかない命を支え合って生きよう。  
生きたいと思えば色づく未来がある。

興梠 媛愛〈高千穂高3年〉

コメント欄の「シネ」「キエロ」「ウザイ」  
マスクをしても距離をとっても防げないウイルスたち。

桑畑 花美〈鵬翔高1年〉

## 入選

肌の色も目の色も違う。だけど笑って過ごせる友達。  
「違い」なんて関係ない。だって同じ世界のたった一つの命。

窪田 美優〈小林高1年〉

いってきます。聞こえなかったら家族は心配。  
言わなかった自分も不安。家族とできる安全確認。

原田 紗希〈小林高3年〉

のどまで出かかって飲みこんだ「やめなよ」という言葉。  
言っていたら、君はまだ笑っていたらどうか。

高橋 彩乃〈高城高2年〉

ちょっとの油断で広まるウイルス。何気ない言葉が拡散されるSNS。  
どちらも周りの人の事、想えてるかな。

奥田 こころ〈高千穂高1年〉

人間は花と同じ。いろんな色がある。枯れそうな花には水を与えれば元気になる。  
私は皆の水になる。

一水 優奈〈高千穂高3年〉

あなたを嫌う人は沢山いるかもしれない。でも同時にあなたを愛してくれる人もいる。  
そのことを忘れないで。

福田 翔吾〈宮崎東高(昼)3年〉

となりのせきのあの子。最近元気ないなあ。LINEで話しかけてみようかな。

岩倉 蓮〈門川高2年〉

コロナでなくなった笑顔。みんな辛い思いしている。  
医療従事者が必死で働いている。だから必死で生きよう。

高岩 一茶〈小林高3年〉

実習最後の日。「私の名前覚えてますか。」と聞くと初めて名前を言ってくれた。  
うれしさで涙が顔をぬらした。

園田 夢実〈日南学園3年〉

コロナ禍でなかなか帰れない家。早く家族に会いたい。母のご飯食べたいのに。

夏山 虎太〈日南学園2年〉

障害だからできないことなんてない。スポーツを通してはじめて知った勇気をありがとう

河野 亜美〈日南学園2年〉

## 学校賞

宮崎県立高千穂高等学校

# 一般の部

## 最優秀賞

いじめの緊急事態宣言は常に発動中。  
ワクチンやマスクで防げないこのウイルスを  
思いやりの心でなくそう。

佐藤 耕大〈宮崎市〉



## 優秀賞

懐かしい君の顔を見に行きようがない。  
見るさえもできない生物に邪魔をされている。ごめんね、母さん！

アベーシンハ ネシャーン ギーランガ〈三股町〉

毎朝一首。母の最後の歌集から選び家族LINEに載せる。  
子も孫も亡き父も生き生きと語り出す歌の中。

清水 真名〈西米良村〉

## 入選

祖母へありがとう。小さい頃からの送り迎え。安心して免許返納していいよ。  
今度は私が送る番。

比恵島 崇〈宮崎市〉

毎朝日課で読む新聞。  
今日も目にする悲しい記事が明日は1つでも幸せな文字に変わっていますように。

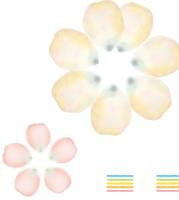
森 夏海〈宮崎市〉

考えて。一人一人に帰りを待つ人がいることを。  
ある日突然あたりまえがなくなる恐さを。

竹内 涼平〈宮崎市〉

あなたを守るため、最強の女になった。あなたを守るたび、涙もろくなかった。  
あなたの母になれて、幸せです。

今井 彩美〈新富町〉



## 一行詩「生命のこえ」

### 審査員の紹介



内藤 泰夫 (宮崎県芸術文化協会 会長)

中馬 宣明 (詩人・前公私立中学校 校長)

田代 知代 (宮崎県防犯協会連合会 会長)

谷口 悟 (弁護士・宮崎県弁護士会犯罪被害者支援委員会 委員)

井口 健二 (宮崎日日新聞社編集委員室 編集委員)



### 審査講評

(中馬宣明)



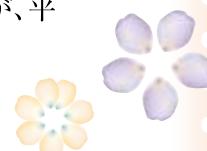
一行詩「生命のこえ」コンテストも15回目を迎えました。関係諸機関の真摯なご支援や、本事業の趣旨を、広くご理解いただいた多くの方々に対し、深く感謝する次第です。今年度はコロナ禍の中、昨年を大きく上回る5,000編をこえる意欲的な作品が寄せられました。

本年も「家族への愛」、「コロナ禍での不自由」、「新しい日常への思い」、など、世相を反映した題材が多く目に留まりました。さらに、「欠けてもいい生命なんて一つもない」、「命は神様の下さったプレゼント」、「母の声は私のお守り」、「空は僕のカウンセラー」等、わずか一行の詩の中で煌くそれぞれの言葉は、心の奥底から生まれたものであり、強く胸を打たれました。

これまでとは違った日常生活の中で、ふと出会った命と真剣に向き合い、一つの作品に仕上げる過程での深刻なまなざしが目に浮かんできました。命の尊さや、はかなさを各世代獨得の感性で捉えた作品が多く、人としての温かさや優しさを感じました。同時に、かけがえのない命への敬けんな祈りが届いてきました。

人の命を軽視した事件、事故が多発していますが、一行詩「生命のこえ」が、平和な日常を取り戻すための一助になることを祈っています。

次年度も多くの作品が届くことを期待しています



# 一行詩 「生命のこえ」

- 主 催／(公社)みやざき被害者支援センター
- 共 催／宮崎県警察
- 協 賛／JA共済連宮崎
- 協 力／宮崎県教育委員会
- 後 援／宮崎県・宮崎県犯罪被害者等支援連絡協議会
  - 宮崎県弁護士会・宮崎県公認心理師・臨床心理士会
  - NHK宮崎放送局・MRT宮崎放送・UMKテレビ宮崎
  - 朝日新聞社・毎日新聞社・読売新聞西部本社・西日本新聞社
  - 宮崎日日新聞社・夕刊デイリー新聞社・MCN宮崎ケーブルテレビ
  - BTV(株)・(株)ケーブルメディアワイワイ
  - (公財)宮崎県防犯協会連合会・(公財)宮崎県暴力追放センター
  - (一財)宮崎県交通安全協会・宮崎県安全運転管理者等協議会



宮崎県公安委員会指定 犯罪被害者等早期援助団体  
**公益社団法人 みやざき被害者支援センター**  
〒880-0806  
宮崎市広島1丁目13番10号 宮崎県畜産会館2F  
TEL.0985-38-7831 FAX.0985-65-7831  
URL <http://www.miyazaki-shien.or.jp/>